

現地レポート／林 麗英（文化科学研究科、地域文化学専攻）

派遣先：台湾

派遣先機関名：国立台湾史前文化博物館

派遣期間：2012年7月25日～2012年9月14日

2012年9月19日報告分

授業・研究の進捗状況

7月25日から9月14日まで、台湾東部台東県太麻里溪域周辺に位置する太麻里郷X村と隣の金峰郷の原住民地域（村）に現地調査を行った。調査した内容については、下記の通りにとりまとめて報告する。

1. アワ収穫祭（masalut）の変質に関わる現象は時期により以下の二段階にわかれる。1970年代の、政府機関からの公共資金による新しく組織された村の連合豊年祭（アミ族とパイワン族）、その後の、住民文化産業化にともなう多民族集団が協働して実施するものであることが推察できた。
2. 原住民族とNGO・NPO組織とのパートナーシップによって、従来の村の共同資源（山林の植物、木、道路、水など）が文化産業化に活用される一方で、それに関する使用権と管理制度が不可欠な現状があること推察できた。
3. 移住政策のもとに首長家（mazazangilan）を中心となって配置された家屋の分布からみると、首長家の周りは血縁関係の親族や親近者（もとの村から連れてきた）に囲まれていると考察した。
4. 農産物の外部社会への流通にともない、既存の生産施設では対応できないものとして、収穫物の貯蔵施設があげられる。とりわけ、6月から9月にかけて集中的降雨量や台風、熱風などの自然災害が起きやすい時期にこうした課題が顕著となる。

生活関連状況

8月期間中、台風9号と14号に遭ったため、調査地に唯一の道路や橋、鉄道はよく通行止めされる。また、農家の農産物や家屋の被害もすくなくない。こうした自然災害に遭った村社会において、周りの村人の情緒、生活行動に気遣うときがよくある。調査活動中、被訪問者の多くは農事者、賃金労働者なので訪問のタイミングが必要である。また、農家は畑の仕事だけではなく、家事や子守、親友交流などの都合がよくある。こうした状況のなか、中長期滞在の私にとって時間の圧迫感が強く感じる。調査地から本事業の受け入れ先の国立台湾史前文化博物館までの距離はバスで約40分かかるため、資料収集や調査活動の相談、研究身分の確認などに助かった。

その他報告すべき事項

特に無し。